

岩国市埋蔵文化財調査報告 第6集

中津居館跡Ⅳ

—薬師堂公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022

岩 国 市
岩国市教育委員会

序

中津居館跡は岩国市を流れる錦川の河口部、三角洲に立地する中世の集落跡、居館跡と考えられています。地域の方からは「朝日長者」又は「椿長者」の屋敷跡とも呼ばれ、屋敷にまつわる多くの言い伝えとともに、古くから愛着を持って語られる遺跡です。これまでの調査で一括出土銭の出土や石垣、船着場の発見など大きな調査成果があり、今に至る岩国と周辺地域の中世史を考えるうえで欠くことのできない遺跡です。

本書は、岩国市を事業主体とする薬師堂公園建設工事に伴う発掘調査の成果をまとめた記録です。

この報告書が多くの方の目に触れ、埋蔵文化財についての認識を深め、学術研究や歴史教育の資料として広く活用されることを期待するものです。この遺跡と遺跡を取り巻く歴史について知る一つのきっかけになれば幸いです。

発掘調査の実施にあたり、地元住民の皆様をはじめとして、多大な御協力・御支援を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも文化財保護行政について、格別の御理解と御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和4年3月

岩国市教育委員会
教育長 守山 敏晴

例 言

- 1 本書は岩国市教育委員会が令和3（2021）年に実施した、岩国市楠町三丁目地内の中津居館跡の埋蔵文化財調査の成果報告書である。
- 2 調査は岩国市を事業主体者とする薬師堂公園建設工事に伴い実施された。
- 3 調査および報告書作成作業の組織および担当は次のとおりである。
事 務 局 岩国市教育委員会文化財保護課
調 査 員 藤田 慎一
調 査 補 助 員 舟津 武好
- 4 本書中の方位は世界測地系による国土座標（第3座標系）の北で表示し、標高は海拔標高である。
- 5 本書に使用した図面・写真類及び出土品は岩国市教育委員会文化財保護課に収蔵保管している。
- 6 本書中で使用した遺構略号は次のとおりである。また略号についた番号については調査時のものを使用している。 土坑—SK ピット・穴—P
- 7 本書の作成は、岩国市教育委員会文化財保護課が行った。執筆および編集は藤田が実施した。

はじめに

中津居館跡は錦川河口部の三角洲上に立地する遺跡である。これまでの調査では中世の石垣を伴う土塁のほか、掘立柱建物、井戸、一括出土銭埋納遺構などが確認されており、中世前半の13世紀後半から14世紀前半にかけての港と考えられる集落と16世紀の居館跡であったと考えられている。近世では居館を囲繞する石垣を隠すように土を盛り築地とし、寺院として土地利用がなされ瑞光寺と薬師堂が建立されていた。

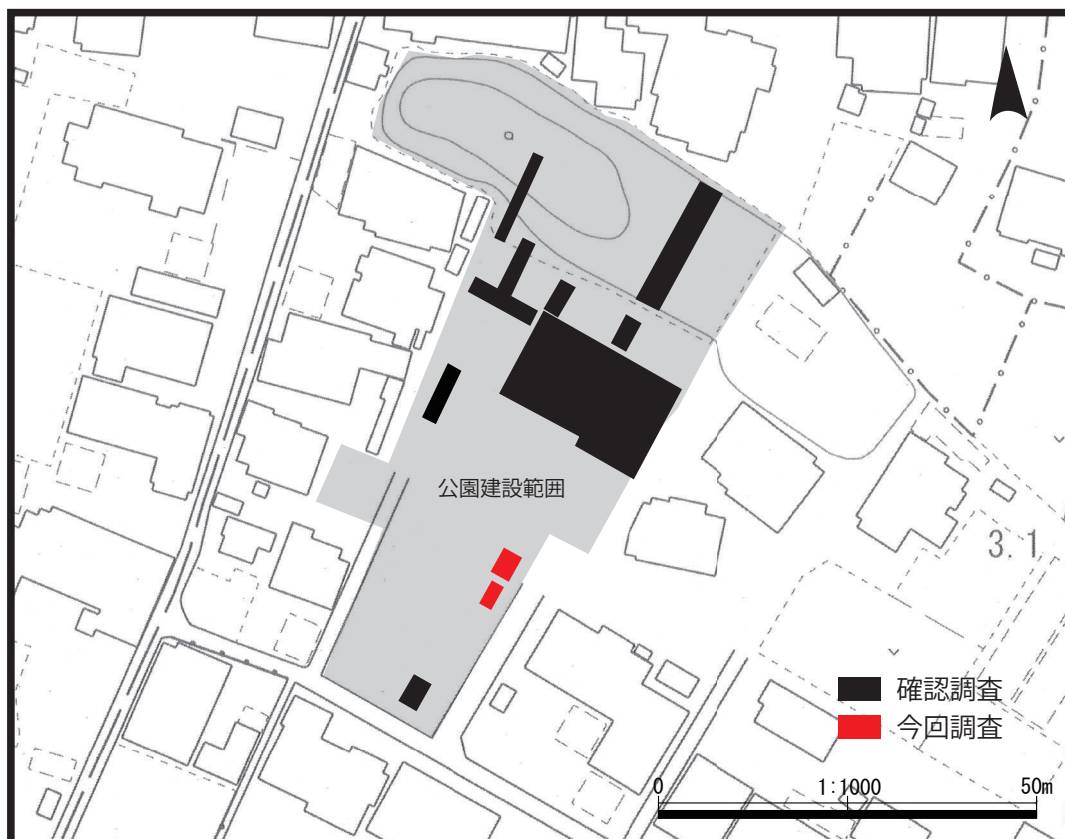
今回の調査地は遺跡範囲の北西側に位置し、周辺の調査では主に近世の瑞光寺に関する遺構が確認されている。中世の遺構については希薄であり、遺物もあまり出土していない。

調査に至る経緯

薬師堂公園の整備事業の開始にあたって、開発部局である都市開発部公園景観課および山口県教育庁社会教育・文化財課との調整、協議により令和3年度から本遺跡内の公園整備地のうち、記録保存が必要な15㎡の本発掘調査を実施した。

調査の経過

本報告書は、中津居館跡における第19次の調査成果を収録している。現地調査は令和3年10月18日から開始し、10月29日に担当課である公園景観課の確認を受けて、調査を終了した。現地調査終了後、遺物整理、図面整理等を行い、報告書の作成作業を実施し、令和4年3月31日に本書を刊行した。



第1図 中津居館跡調査区位置図

遺構（第2図）

調査区は現代の整地層である表土が約30cmの厚さでひろがり、その直下に灰褐色土の近世から近代にかけての整地層（Ⅰ層）がひろがる。その下層には中世から近世の遺物を包含するにぶい黄褐色粘砂質土層（Ⅱ層）が約20cmの厚さで堆積する。その直下が無遺物層であるオリーブ灰色シルト層（Ⅲ層）がひろがり遺構検出面を形成している。その下には砂層がひろがり、錦川の旧河道であったと考えられる。今回の調査では検出面で土坑2基、穴1基が確認された。近世後半から近代の遺構と考えられる。

SK2101001

調査区の南側で確認された土坑である。規模は検出長で長軸2.00m、幅1.10m、深さ0.20mをはかる。断面形状は半円状を呈する。埋土は灰黄色粘砂質土である。遺物は瓦が出土した。

SK2101002

調査区の北側で確認された土坑である。規模は検出長で長軸0.84m、幅0.60m、深さ0.05mをはかる。断面形状は皿状を呈する。埋土は灰黄色粘砂質土である。遺物の出土はなかった。

P2101003

調査区の北側で確認された穴である。規模は検出長で長軸0.50m、短軸0.35m、深さ0.08mをはかる。断面形状は皿状を呈する。埋土は灰黄色粘砂質土である。遺物の出土はなかった。

遺物（第3図）

中世土師器、陶磁器、瓦が出土している。1～6は表土層および遺構検出面直上の包含層からの出土、7～10はSK2101001から出土である。

1は土師器皿、2は土師器坏である。1、2ともに年代は13世紀後半から14世紀前半である。3は景德鎮産の染付皿で、小野分類のB1群（小野1982）にあたる。年代は15世紀後半から16世紀前半である。4は肥前系磁器の碗、5は多田窯産の碗で、釉層に貫入が目立つ。4、5ともに年代は18世紀後半である。6は昭和39年製造の50円硬貨である。7～10は瓦である。7、8は棧瓦、9は丸瓦、10は平瓦である。棧瓦は両袖の平瓦の可能性も伺うことが出来る。瓦は御庄産で19世紀代のものと考えられる。

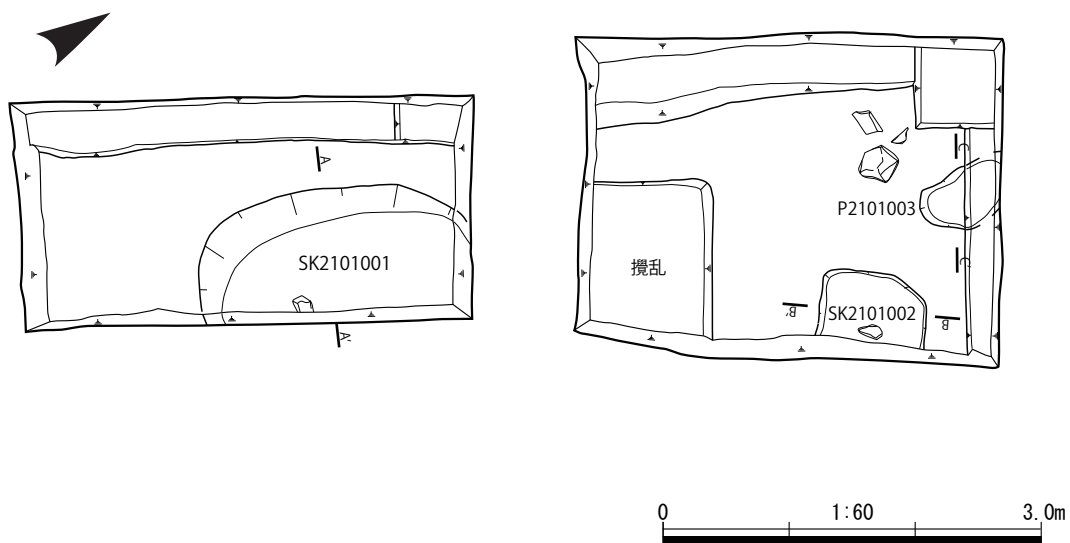
まとめ

今回の調査では中世の遺構は確認出来なかったが、遺物では土師器坏、土師器皿、景德鎮産染付皿の出土があった。調査区およびその周辺では近世に瑞光寺や薬師堂があったことは確認調査や絵図等で判明しており、今回の調査でも、この瑞光寺あるいは薬師堂に伴う瓦の廃棄土坑が確認されたことから中津居館跡が近世に城館から寺院へと土地利用が変化したことが、より明らかになった。

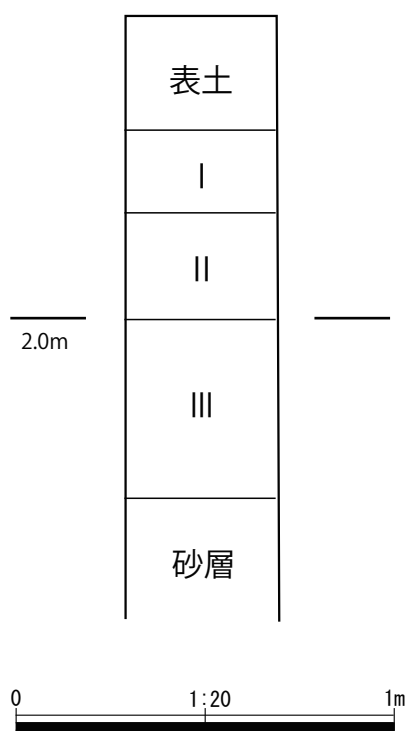
参考文献

- 岩国市教育委員会 2012 『中津居館跡（旧加陽和泉守居館跡）』
- 岩国市教育委員会 2016 『中津居館跡Ⅱ』
- 岩国市教育委員会 2021 『中津居館跡Ⅲ』
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類の年代」『貿易陶磁研究』2

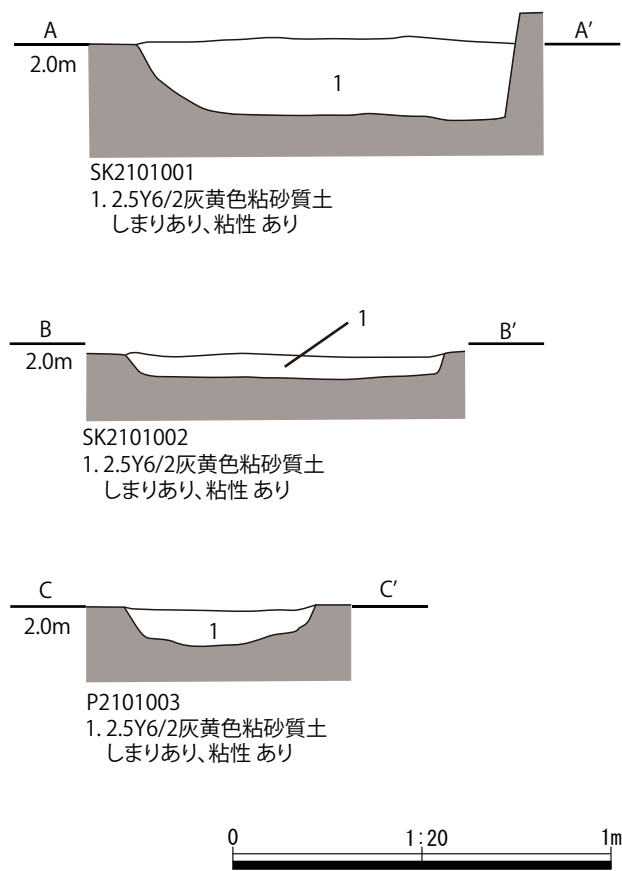
(調査区平面図)



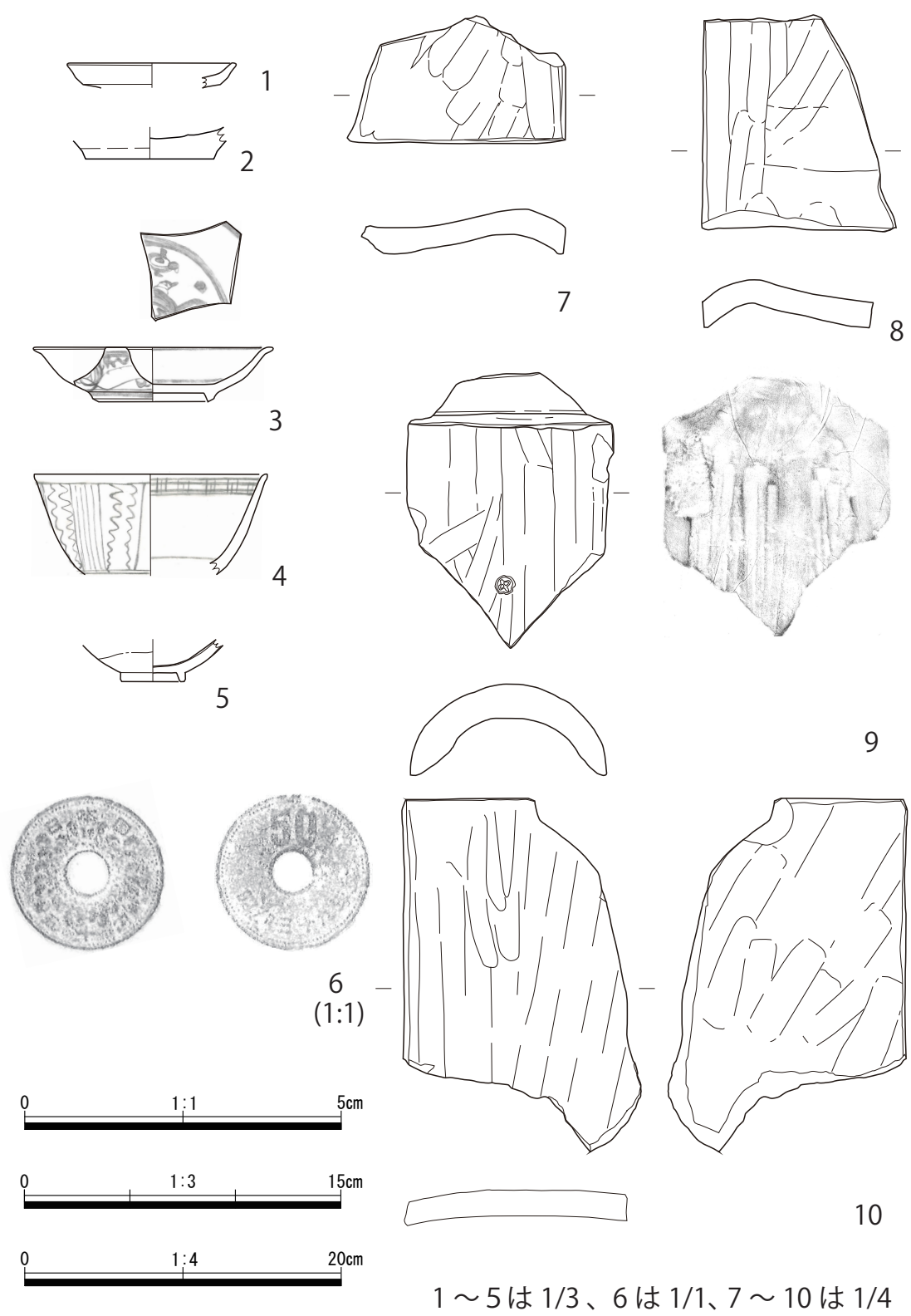
(基本層序模式図)



(遺構断面図)



第2図 調査区平面図・基本層序模式図・遺構断面図



第3図 出土遺物



調査区完掘状況（南西から）



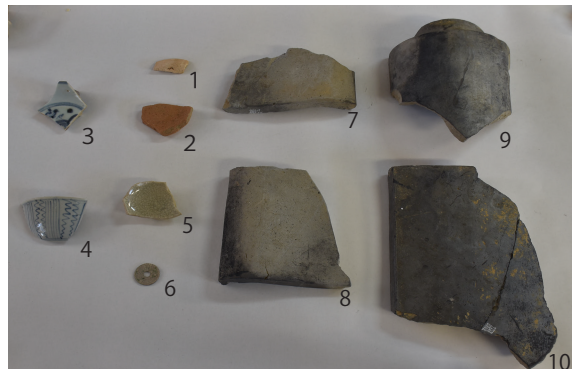
調査区完掘状況（北東から）



SK2101001 完掘状況（南西から）



SK2101002 完掘状況（北東から）



出土遺物

ふりがな	なかづきよかんあと よん							
書名	中津居館跡Ⅳ							
副書名	薬師堂公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	岩国市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	藤田慎一							
編集機関	岩国市教育委員会							
所在地	〒741-0081 岩国市横山二丁目6-51 TEL 0827-28-5353 FAX0827-28-5677							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
なかづきよかんあと	やまぐちけん いわくにし くすのきまち	35208		34° 9' 23"	132° 12' 38"	20211018 ～ 20211029	15	公園建設
中津居館跡	山口県 岩国市 楠町							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中津居館跡	城館跡	中世・近世	土坑・穴	陶磁器・瓦				
要 約	中世の遺構は確認出来なかったが、近世の瑞光寺に関連する遺構、遺物が確認された。							

<p style="text-align: center;">岩国市埋蔵文化財調査報告 第6集</p> <p style="text-align: center;">中津居館跡Ⅳ</p> <p style="text-align: center;">—薬師堂公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—</p> <p style="text-align: center;">発行年月 2022年3月</p> <p>編集・発行 岩国市教育委員会（文化財保護課） 〒741-0081 山口県岩国市横山二丁目6-51</p> <p>印刷 有限会社アウルズコーポレーション 〒740-0017 山口県岩国市今津町一丁目10-16</p>
